

## 大学進学セミナー報告

留学というステップを踏み、帰国子女として日本の大学へ進学するが、または海外の大学へ進学するのは、留学期に直面する重要な人生の岐路にあたります。EDICM恒例の大学進学セミナーが、2011年8月17日、アゴス・ジャパンにて開催されました。これまでは受験を目前に控えた11・12年生を対象にセミナーを行ってまいりましたが、新たな試みとして、早期準備が鍵となる、9・10年生を対象としたセミナー、また、アート系大学進学向けセミナーも同時に開催しました。ゲストスピーカーには韓国国際教育センターより長嶋氏、アゴス・ジャパンより後藤氏をお迎えし、日本の大学受験および海外の大学進学（主にアメリカ）に必要な傾向と対策をお話しいただきました。4名のOB・OGパネリストとともに、2名の特別パネリストも参加し、大変賑やかなセミナーとなりました。



### 韓国国際教育センター 長嶋 秀保氏

最近、大手一流企業に就職したものの、海外勤務を命じられ、いやだと言つて会社をあっさり辞める人が非常に増えているそうです。日本のビジネスマンは「世界に行つて戦うぞ」という時代がありますが、最近では国内が楽だと日本に留まる傾向が強くなつて、世界中心に行つても韓国や中国からの駐在員を多く見かけます。アフリカとある国の外務省の方から、「中国や韓国はアグレッシブな方に対し、日本人は英語は得意だという顔をしているが、目的意識がないのが、知識もなければ何かを得ようとする行動力がない」と言われました。日本の企業の担当者も、英語ができるだけというなら、英語も日本語もできる中国人を雇つた方がよっぽどいいと語ります。ある航空会社曰く、志願者の半分は海外経験者ですが、英語以外にできるものがなく、何にも知らない人が多いようです。日本人は、1500年も前から海外に留学をしていました。海外で学ぶものを持ち帰り、日本で活かしていくことが留学生の役目です。日本の将来を考えた時、日本が生き延びていくためには、よりグローバル化した社会に対応できる人材が必要となり、今、帰国子女や留学体験者が期待されています。

2004年にACジャパン(旧公共広告機構)が、「真の国際交流は、日本人が日本のごくことを知るから始まる。」という広告を流しました。帰国生の多くが、「外国の友達と話す時、自分の中に日本が欠けていることに気づかされる。外国の友達は自分の国をよく知っている。それに比べて、自分は日本のことを何も知らないで生きてきた。」と話します。国際的な分野で働くには英語ができなければいけないが、だからといって有利になることは限らない世の中へと変わってきました。英語が日本企業で公用語となりつつある今、海外体験を活かそうとスタートラインに立った時に、政治・経済・経営、教育・文化、なんでもいれ、英語以外にできる何かを持っているいなければならない時代です。これらは是非、海外にいる間に再認識し、将来日本で活躍するために、しっかりと日本について学んでほしいと思います。

### アゴス・ジャパン 後藤 道代氏

今年のアイビーリーグ校の合格率は軒並み下がっています。例えばハーバード大が2010年から0.7ポイント落ちして6.2%、スタンフォード大とMITがそれぞれ1%下げて7.1%と9.6%、コロンビア大に至っては9.2%からの大幅な下落で6.4%にまで落ち込みました。しかし、リマンショック以降、ここ3年連続で韓国大学への出願

者数は増加しています。その為、合格率は下がっているものの、「合格者数」自体は変異していません。例えばコロンビア大学の合格率の急変は、共通願書(Common Application)の採用を始め、より出願が容易になったためと考えられます。共通願書の採用が増えるに従い、一人の学生の出願校数が増えたと見られます。受検時には多くの情報が目に入ってしまうが、必要以上に合格者数の数字に惑わされないように捉えていただきたいです。

こうした所謂トップ大学は、世界で活躍できる様々なリーダーを育てるために、多様なバックグラウンドを持つ学生を求めています。人種や言葉、専門や課外活動の種類など、様々な観点からバラバラと学生を集めています。そして同じアジアの留學生でも、トップ大学に出願する韓国人学生の数が増えており、日本人学生は減っています。例えば日本人学生の出願校数が10年前は15人に対し、昨年は101人。一方、韓国学生の出願校数はここ10年で183人から314人に増えています。日本人という枠組みの中だけで考えれば、受験者数の減少により合格率は上がっているとも言えるかもしれませんが、今後は中国人学生が台頭してくる模様です。ちなみに願書の早期行動(Early Action)の方が受験者数が少ないため、やはり有利だと言われています。

### OB・OGパネリスト 成功への道のり

窪澤 万字伊さん  
(早稲田大学人間科学部1年生)

SATやTOEFLなどの統一試験対策を11年生から始めたのがきっかけ。9・10年生で単語力をつけ、11年生の夏休みに早稲田準備コースなどに参加するなどして、早い段階で受験対策を始めることを勧める。日本語を置く力が無いと入試は突破できない。面接では時事問題の知識も問われるので、留学期は日本語の本を読み、普段から興味を持つことで世界のニュースに目を向け、読む癖

をつけた方がいい。

### 渥美 諒くん

(慶応義塾大学法学部政治学科1年生)  
アメリカの大学進学も考えていたが、将来、日本に貢献したいと思い、日本の大学進学を決定した。9・10年生は学校生活を楽しめ、良い成績を取ることに専念し、同時に早い時期から統一試験の対策を始めた。サマースクールなどの活動は、どこかの大学に行くにも高く評価されると思う。自分は目標の政治学科に近く、インターシップを始め、シンクタンクに行ったり、議員事務所を手伝わせてもらったりした。

### 村上 智香さん

(Maryland Institute College of Art入学)  
留学期は東馬や南アフリカでのボランティア活動など、どんどん新しいことに挑戦した。サマースクールには毎年参加し、生徒会の手伝いや雑誌の編集など、学業以外にアピールできるポイントを増やした。最後の年には米大のPre-Collegialに参加しPortfolioを作成。先生や在校生からアドバイスをいただき出願。奨学金付で合格した。大学のPre-Collegialはコネクションを作れることもあるのでお勧めです。

### 井口 信之介くん

(University of Cincinnati入学)  
高校ではAPの科目を多く取るなど、極力成績評価が高くなるような科目選択をした。課外活動では陸上とアメフトでキャプテンを務め、大会には出場したり、アートを受賞したりした。面接の際に好印象を残せるよう、自己アピールスキルを意図的に磨き、志望大学の先生と仲良くなり、連絡を取り合うなどして、受験にプラスになる状況を作ることができたことが合格の大きな要因の一つ。統一試験対策は早い段階での準備をお勧めする。



OB・OGの皆さん、左から鈴木くん、石井くん、村上さん、井口くん

### 特別パネリストディスカッション

#### アイビーリーグ VS 名門リベラルアーツ

##### ●パネリスト紹介:

鈴木 一成くん  
Cate School卒業後、ペンシルバニア大学(University of Pennsylvania)入学。Engineering and Applied Science/Business専攻。2011年5月同大学卒業。

##### 石井 佑亮くん

Davis Senior High School卒業後、ヴァッサー大学(Vassar College)入学。現在3年生。専攻はBiology/Pre-Med。

##### ●インタビュアー:

柏倉 眞紀子  
EDICM代表取締役

我々はアメリカの大学とどう違うのか、どうしてもハーバードやスタンフォードなど、名門と呼ばれる総合大学しか思い浮かべない傾向がありますが、アメリカには超超問とされる小規模リベラルアーツ大学が存在します。その多くは小規模で合格者が少なく、従って必然的に競争率が高くなります。マサチューセッツ州のハーバード大学などは、ハーバードに入るよりも難しいといわれる年もあります。本日は総合的な教育研究を提供するアイビーリーグの名門校・ペンシルバニア大学を卒業した鈴木一成君、対照的に、一般教養を重視し全人教育システムを実施するリベラルアーツカレッジの名門校・ヴァッサー大学3年生の石井佑亮君をお招きし、まったく環境の違つたお二人の大学生活についてお話しさせていただきます。

##### 柏倉:

鈴木君は私立のボーディングスクールから大規模の総合大学へ進みましたが、ボーディングスクールと比べてこちらは良い、ここがちょっと困つたということはありませんか。

##### 鈴木:

とても良かったのは、スポーツや音楽・芸術など、課外活動において想像できるすべての種類が提供されていたことです。会社を起業しようというグループなど活動はバラエティに富み、大学にそれだけの人数がいるからこそできることが結構あると思います。反面、大学(特に大きな)ではルーティンが無い等しく、全ては自分の意志で決めて動かなければなりません。それこそ何時にも起きなければいけないわけでもなく、クラスに出なくても何も言われない、全て自己管理の世界です。自分から大学にいくくらい入るまで楽しいという気持ちでなければ成功しません。僕自身、最初のセメスターは苦労しました。自由であるけれど、誰もこうしなさいといふことは言ってくれない、自分から求めていかないと行けないのが総合大学です。

##### 柏倉:

鈴木: それでは、逆にリベラルアーツカレッジ、小規模の大学について教えてください。

##### 石井:

カリフォルニアの田舎にある大きな公立高校から、ハリウッドのような夢の国に感じた一瞬戸惑いを感じましたが、絵に描いたような楽しいキャンパスに感動しました。クラスの規模は小さく、多くて30名、少ないと1名

ということもあります。先生との距離がとても近く、なんでも相談でき、一緒にご飯を食べに行ったりもし、学生にとって家族のような存在です。寮生活とても楽しく、入学してすぐにグループを作って、そのままルームメイトとして仲良く過ごしました。ちなみに全寮制です。通常、リベラルアーツカレッジはほとんどが全寮制で、1年次は3人部屋など大部屋でしたが、学年が上がるにつれてスイートタイプや、アパートメント風のハウスなどに一緒に住んで学校に通います。

##### 柏倉:

いくつかの大学に願書を出されたわけですが、なぜヴァッサーのPre-Medにしたかを以前にお伺いした際、アメリカでは所謂調理学部名大事だが、個人のコネクションがとても大事だということがありました。今回、某大病院の研修に行かれた際も、知り合いの紹介によるライン作りを聞いて面白かったと思いました。

##### 石井:

ヴァッサーを選んだ理由は、カリフォルニアを離れて、アメリカの東海岸を知りたいという好奇心があったこととありますが、大学が新しくつくった学部に興味を持ったことが最大の理由です。そして奨学金がもらえたことです。テニス部の友人の父親が某大病院のシニアVPを務められており、電話番号を見て直接相談したところ、入学を重視し全人教育システムを実施するリベラルアーツカレッジの名門校・ヴァッサー大学3年生の石井佑亮君をお招きし、まったく環境の違つたお二人の大学生活についてお話しさせていただきます。

##### 柏倉:

小さい大学というのは密度が高い分、人間のコネクションが作りやすいというわけですね。

##### 石井:

会ったことによって良い研究所へ行った、良い研究所へ行けたことでまた新たな人に出会えました。勿論、自分自身が頑張ったことでもあります。人とのお出合いの大切さということが出来ると思います。小さな大学、家族ぐるみで仲良くなれる環境は素晴らしいと思います。

##### 柏倉:

大学は勉強をするところでもありますが、次の舞台は社会そのものです。自分はどのような仕事に就くのか、そのためのネットワークをどう作るのか、先生や友達、知り合いや現地の日本人などから、大学にいる間に情報を得て、コネクションを築くことはとても大切です。鈴木君は大学を卒業し、就職が決まり、9月から社会人です。大学生活の中で、次のステージをどのように組み立てていったのかを教えてください。

##### 鈴木:

僕の大学は次のステップを考えている人が非常に多い大学です。ビジネススクールに進み、その先に何をしたいかを見据えています。大学では就職に関するセミナーなどが常に行われていて、1年生など興味がない学生でも興味を持つようになります。企業や先輩の色々な話を聞くことによって、信頼できる先輩に就活のことを相談したりして、大きな大学でも徐々にコネクションが一瞬戸惑いを感じますが、絵に描いたような楽しいキャンパスに感動しました。クラスの規模は小さく、多くて30名、少ないと1名

する機会が多い大学でした。

##### 柏倉:

いくつか大学を受けるにあたり、ビジネス専攻を予め決めて受験しましたが。

##### 鈴木:

都市部で理工学を勉強できる大学は少ないのですが、その中でたまたまペンシルバニア大学がビジネスと理工学を両方持ち、近年、会社に増えつつある、技術者と経営者のギャップを埋める為の理解相互プログラムを持っており、面白そうだったと思い挑戦してみました。当時は理工学部でモブクリがしたいという気持ちがメインだったのですが、作るからには消費者の心がわかって、マーケティングを理解し、世の中に売れるものが作れるエンジニアになりたいと思いはじめたからです。結局エンジニアにはなりませんでしたが、思った通りの勉強ができ、午前中はエンジニア関連、午後はマーケティングのクラスでディスカッションなど、ちょっと違った頭の使い方など刺激されて楽しかった、どっぷり勉強に没入することができました。

##### 柏倉:

後輩たちに、高校時代にこういうことをやってみたいほうがいいなど、大学で生き残っていくためのアドバイスをお願いします。

##### 石井:

寮生活を通じて自己管理を徹底することで、何でもやってくれるという「慣れ」から離れること、賢から離れて親のありがたみを知ることも大切です。

##### 鈴木:

自分の好きなものを探してほしいです。高校時代に色々なことを色々なところに行つて、色々な人に出会って色々な話を聞いて、もっともっと多くの刺激を受けてください。なぜなら、その後の大学生活はあつたという間に終わってしまうからです。

##### 柏倉:

最後に、将来はどういう方向へ進みたいと思いつながら大学で勉強されていますか。また、これから受験を控えた後輩たちに、アドバイスをお願いします。

##### 石井:

夢があります。様々な分野において勉強をしたいですが、生物学専攻なので細胞学から動物行動論までの広い範囲を追究していきたいと思っています。僕の大学には世界中から集まった人たちがいますが、彼らの話を聞くだけでも刺激です。将来は医者になって患者さんを助けるという夢にプラスして、研究の分野にも進んでいきたいと思っています。

##### 鈴木:

何事にも目標を持つことです。思っているだけではなく、書き出してみることが大事です。書くということは考えるということです。やりたいこと、感じたことを書き留めていく癖をつけ、時には過去を振り返り、達成できたかを確認していくことが、その先の成功につながります。

##### 柏倉:

貴重なお話をありがとうございました。